

# 高级日语 系列教程

# 高级日语

第2版



主审 / 杜凤刚 李筱平

总主编 / 孟庆荣

本册主编 / 王冲 王玉明 穆红



大连理工大学出版社

非外借



第2版

# 高级日语

# 高级日语 系列教程

主审 / 杜凤刚 李筱平

总主编 / 孟庆荣

主编 / 王冲 王玉明 穆红

副主编 / 孙成志 唐晓煜 李捷

编者 / 孟庆荣 王冲 穆红 王玉明 孙成志 唐晓煜 李捷 闻艺 孔月 李光赫



大连理工大学出版社  
Dalian University of Technology Press

## 图书在版编目(CIP)数据

高级日语. 第1册 / 孟庆荣等主编. — 2版. — 大连 : 大连理工大学出版社, 2017. 8

高级日语系列教程

ISBN 978-7-5685-0984-8

I. ①高… II. ①孟… III. ①日语—教材 IV.  
①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2017)第 167563 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路80号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84708943 传真:0411-84701466

E-mail:dutp@dutp.cn URL:http://dutp.dlut.edu.cn

大连金华光彩色印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

---

幅面尺寸:185mm×260mm 印张:21.5 字数:509千字  
2014年3月第1版 2017年8月第2版  
2017年8月第1次印刷

---

策划编辑:张 凡  
责任校对:刘 姗

责任编辑:张 凡  
封面设计:王付青

---

ISBN 978-7-5685-0984-8

定 价:39.00元

本书如有印装质量问题,请与我社发行部联系更换。

# 前 言

《高级日语系列教程》是大连理工大学外国语学院日语系组织编写的《新综合日本语》系列教材的高级篇，可作为大学日语专业三年级学生精读教材使用，亦可作为中、高级水平日语学习者自学使用。

初、中级阶段的语言学习主要以打好语言基础为主；而高级阶段的语言学习则主要以提高语言的的实际应用能力、掌握跨文化交际能力为主，即把掌握的语言运用起来，学习知识、表达思想等。基础阶段的语言学习的重点是课文里的语言表达、语法学习以及对整体内容的理解和掌握；而高级阶段的学习则注重理解作者的创作意图，充分理解作者想要表达的观点，通过参与课堂活动等用语言来表达自己的主张和见解。在发表个人意见的时候，观点的对错不重要，重要的是会用日语表达自己的见解。综上所述，本教材的主旨是通过继续深入基础阶段的学习，提高日语的应用能力，提升学习者的个人综合能力。

语言是一门注重实践性的学科。因此，本教材设定了许多与课文相关的话题、问题和课题。这些课堂活动可以以个人、两人或者小组等形式展开。希望广大学习者抱着坚定的信念来挑战各项活动，为提高语言的综合运用能力而努力。

本次再版除了对上一版本进行修正以外，还考虑到日语学习者对于日语能力考试备考的需求，增加了相应的词汇、语法以及阅读的练习形式。

希望能有更多的日语学习者通过学习本教材能够提高自身的日语修养，提升语言的应用能力。由于作者水平有限，错误之处在所难免，恳请各位同行不吝赐教。在此谨向您致以最诚挚的谢意！

大连理工大学外国语学院

孟庆荣

2017年7月

# 使用说明

## 1. 教材的编写理念

### ① 以实践性学习为目的

★通过实践才能真正获得语言的应用能力。

### ② 培养思考的能力

★任何知识的学习都不是死记硬背。在高级阶段的语言学习中，不仅要理解作者的主张，更要学会思考，形成自己的观点并加以表达。

### ③ 勇于表达自我

★语言是工具，既然是工具，我们就要学会运用它来表达自己的思想感情，这是非常重要的。

### ④ 培养协作学习的能力

★自主学习固然重要，但与他人协作学习的能力也是交际时应该具备的基本条件之一。

### ⑤ 培养学习者发现问题、解决问题的能力

★高级日语学习阶段，要培养探索发现的能力，培养求知欲，并找到解决的办法和途径。

### ⑥ 通过学习发现自我

★最后，希望广大学习者通过学习本教材，发现自己的能力，激发自身的潜力，并能持之以恒地坚持下去。

## 2. 教材的编写宗旨

本教材的编写以提高学习者的语言应用能力为基本目标，同时综合培养日语学习者的语言交际能力，具体可归纳为以下3点：

(1) 培养日语学习者的跨文化交际能力。

(2) 培养日语学习者的自主思考和自我表达能力。

(3) 培养日语学习者协作学习的能力。

## 3. 教材的基本构成

本教材的内容基本涵盖了日语专业教学大纲高年级阶段所要求的知识范围。内容主要涉及文学、语言、文化、经典话题、科技等方面；文体涉及随笔、评论、访谈、小说及诗歌等。

每课内容主要由以下几个栏目组成：

### ① 课堂活动 I

★“课堂活动 I”主要通过回想、讨论、讲解等唤起学生的相关背景知识，从而增强学习者对词汇的印象及回想起以往所学的知识，加深对将学习的课文内容的理解。

### ② 本文

★学习的主课文内容部分。

### ③ 作者介绍

为了方便学习者加深对课文内容的了解，本栏目提供了作者的基本信息。同时也建议在课堂内容进行中发挥学习者的积极性，由学习者完成对作者更加详细的信息调查。

### ④ 词汇和语法、惯用表现、单词

★这三个板块是为了便于学习者能够自主理解课文内容而设定的。对单词、语法、惯用语句表现等做了详细的解释，语法部分有参考例句等。这部分主要让学习者掌握基本的日语语言知识，增加对课文内容的分析理解能力。

### ⑤ 围绕课文内容的提问

★为了深入理解课文内容，围绕课文的知识点、语言点及作者的观点等提出问题或课题，培养学习者发现问题和解决问题的能力。问题可以独自或几人共同讨论完成，还可以在课题完成过程中逐渐意识到协作学习的重要性，并培养协作学习的能力。

### ⑥ 课堂活动 II

★根据课文内容深入展开的课堂活动。此部分与“课前热身活动”中提到的部分相关知识或内容起到相辅相成的效果，或者就课文内容学习中发现的问题进行探讨、分析，加深对课文内容的深入理解。

### ⑦ 课后练习

★主要参考日语能力考试N1级的考题形式，设置了词汇、语法以及阅读的相关练习题，学习者可以通过练习巩固日语的基础知识，提高应试水平。

### ⑧ 相关阅读

★围绕课文内容展开，扩大相关知识面，为学习者进一步提高语言理解能力提供空间。

### ⑨ 课堂活动 III

★在阅读了相关内容后进行的深入思考和课题讨论，目的是加深对课文内容的理解。并在深入理解的同时，唤起学习者的相关思考，发现问题并通过活动来解决问题，并在完成过程中达到协作学习的目的。

### ⑩ 扩展练习

★主要目的是给学习者提供互动学习的机会，既可对本课内容进行更深入的探讨，又

可培养学习者之间的协作能力。

除课文以外，教材中还包括以下两部分内容：

#### ① 学习之窗

★本部分对课堂学习起辅助性的作用。主要介绍每课提到的课堂活动的具体内容，比如：是什么样的活动？都有些什么形式？有什么规定？按照什么顺序进行？等等。每部分都运用实例进行解释说明。学习者可以选择学习。

#### ② 附录

★附录包括词汇、惯用表现和语法的索引，以及课文中练习题的参考答案。

### 4. 教材的使用建议

#### ① 学习对象

★中、高级水平的日语学习者。

#### ② 所需时间

★每一课都是独立的课文内容，建议教师可根据课文的长短、内容难度等自行安排掌握进度。

#### ③ 课堂形式

★根据班级人数的不同，课堂形式可以自行决定。教师可根据班级人数决定课堂活动如何开展，人数少的可单独提问或两人一组进行，大班可分成若干小组进行讨论。学习者之间的协助学习也是主要培养目标之一。期望各位教师同仁能将更生动、更丰富多彩的课堂活动展示给学习者。

大连理工大学日语系《高级日语》编写组

2017年7月

# 目 录

第1課	変わりゆく音の風景	1/323
第2課	記念写真	17/323
第3課	違う意見がよい	32/324
第4課	肥大化する競争社会	45/325
勉強の窓 (一) 自己を表現する		61
第5課	蜘蛛の糸	66/326
第6課	大量廃棄社会から循環型社会へ	87/326
第7課	多言語・多文化の平和共存	101/327
第8課	テレビを見る時間・見ない時間	117/328
勉強の窓 (二) 情報を正しく伝える I		134
第9課	子供の問い	139/328
第10課	自然との共存	152/329
第11課	みどりのゆび	175/330
第12課	時計	198/331
勉強の窓 (三) 情報を正しく伝える II		216



第13課	日本語の国際化と外来語	223/331
第14課	病と科学	244/332
第15課	考えることのおもしろさ	261/333
第16課	群集の中を求めて歩く	280/334

勉強の窓（四）	討論する	293
---------	------	-----

## 付録

1.	単語	299
2.	慣用表現	320
3.	文法・表現	321
4.	正解	323





川原：社会学者

宮田：騒音問題を考える市民グループの代表

川原 最近、私どもは、「音の風景」とか「サウンドスケープ」とか言いましてね。私たちの身の回りにある、すべての音に関心を傾けてるんですが、どうも、我々を取り巻く音の風景が変わってきてるような気がするんですね。この点、どうでしょうか、騒音問題に取り組んでいらっしゃる宮田さんの目からご覧になって。

宮田 そうですね。騒音というと、どうしても空港の騒音とか、建設工事の騒音といったものをまず思い浮かべるんですけど、実際は、他人の話し声とか電化製品のアラーム音など、ごく身近に人を不快にさせる音がたくさんあるんですよ。しかも、そうした生活の中の小さな騒音が、今はどこに行っても洪水のようにあふれている。だから、一昔前は、いつも耳にしていた自然の野原の音が、例えば、木の葉の音や鳥の鳴き声といった、そういう自然の音が、今はよっぽど耳を澄まさない限り聞こえなくなった。そんな気がしていますね。

川原 今、「どこに行っても」とおっしゃいましたけど。音の風景というのは、本来、地域に固有の特徴を持ってたんですよ。それが、最近は世界的に失われつつあるような気がするんです。どこへ行っても、都会は過密で錯綜した音にあふれていて、音の遠近感や広がりといったものが感じられなくなっている。

宮田 そうですね。また、それを騒音だとは感じていない人が多いんですよ。

川原 ええ。ま、たしかに、何を騒音と感じるかは、個人の音体験に深く関わってますからね。それに、文化や時代とも。

宮田 そうですね。時代と言えば、騒音も、産業化のまっただ中にいた頃には、工場の機械の音も電車の音も、「発展の音」や「都市文明の音」に聞こえていたわけですよ。 「騒音は文化のバロメーター」だなんて言って。掃除機や洗濯機な

どの家電製品だって、昔は電話の呼び出し音が聞こえないほど大きな音を立ててましたよね。でも、だれも文句を言わずにせっせと使っていた。ま、最近のものは、だいぶ静かになりましたけれどね。でも、その代わりに、なんでもかんでもピッピッピッという電子音ですからね。

川原 あれは耳障りですね。でも、今の若い人には、あの電子音も、生まれながらのなじみ深い生活音で。

宮田 ええ。なじみがあるだけに、自分がそういう音を立てても、他人の迷惑にならないと思ってるふしがあるんじゃないですかねえ。電車の中の携帯電話の音や話し声を、不快だと感じてる人がいるかもしれないなんて、きっと思いもしないんでしょうね。小さい頃に自然の音を聞かずに育ったり、静けさというものを体験せずにきたりすると、音に対する感覚が鈍るんじゃないかなあ。

川原 うーん、音に対する感覚というよりも、自然や人に対する感性が鈍るという気がしますね。例えば、屋根に積もった雪が溶けて、ポタポタと軒下からしたり落ちる。その音を聞いて、「あ、春が近いのかな」とか。子どもが部屋の戸をバーンと大きな音を立てて閉めたら、「あれ、なんか嫌なことでもあったのかな」って思ったり。音を聞いて、自然や人に思いをめぐらす、それが感性だと思うんですけど、最近は自然の音も生活の音も、すべて無機的に処理されてしまう。

宮田 なるほど、ミヒャエル・エンデが、『モモ』の中で、不愉快な騒音にあふれている大都会の中で、何も感じとれない、心のない人間になってしまう恐ろしさを描いてますが、今、まさに、そういう人間の感性が失われつつあるのかもしれないね。

川原 エンデも言ってますが、自然そのものが生きた存在なんですよ。そういう自然に対して、我々はある種の畏敬の念を抱いて接近する。音だけではなくて、自然の光や匂い、味や触感といった、いろんな感覚を通して、自然を感じる力を養ってかなくちゃいけない。自然に対して、人間の側からのそういうアプローチが必要だと思うんですね。

川原：社会学者

宮田：騒音問題を考える市民グループの代表

対談とは：

日本語では、二人の談話を対談、三人が鼎談、三人以上(三人を含む)を座談と言います。英語では talk も interview も conversation も人数には関係ないみたいです。ただ三人のときは、a three cornered talk という言い方もします。ちなみに a three cornered relation は三角関係で a three cornered fight は三つ巴戦を意味します。鼎談は「ていだん」と読みます。鼎(かなえ)とは3本足の金属製の鍋のようなものです。

## 語彙と文法・表現

### 一、文化語彙の説明

#### 1. 「音の風景」：

1985年4月1日からNHKのラジオで放送されている5分間の紀行番組である。日本及び世界各地のいろいろな場所を、その場所特有の音を中心に、わずかな解説を付して紹介する。

#### 2. 「サウンドスケープ」：

1960年代終わりに、カナダの作曲家マリー・シェーファーによって提唱された概念で「音風景」、「音景」などと訳される。風景には音が欠かせないという考え方で、そこからサウンドスケープデザインが生まれた。

#### 3. ミヒャエル・エンデ：

1929～1995。ドイツの児童文学作家。

#### 4. 『モモ』：

ドイツの児童文学で、1974年ドイツ児童文学賞を受賞。各国で翻訳されている。特に日本では根強い人気があり、日本での発行部数は本国ドイツに次ぐ。



# 高级日语 (第1册)

一昔前	ひとむかしまえ	名	昔日, 往昔
野原	のはら	名	原野
木の葉	このは	名	树叶
澄ます	すます	他五	集中注意力
固有	こゆう	名	固有, 特有
過密	かみつ	名・形動	过于集中
錯綜する	さくそうする	自サ	错综复杂
遠近感	えんきんかん	名	远近感
まっただ中	まっただなか	名	正盛时
バロメーター		名	标志; 气压计
呼び出し音	よびだしおん	名	呼叫音
せつせと		副	拼命地, 孜孜不倦地
耳障り	みみざわり	名・形動	刺耳
なじみ深い	なじみぶかい	形	非常熟悉
静けさ	しずけさ	名	清静, 沉静, 安静
鈍る	にぶる	自五	变迟钝
感性	かんせい	名	感性
ポタポタと		副	滴滴答答地
軒下	のきした	名	屋檐下
したたり落ちる	したたりおちる	自上一	滴下
めぐらす		他五	动脑筋, 筹谋
無機的	むきてき	形動	无机的
不愉快	ふゆかい	形動	不愉快
感じとる	かんじとる	他五	感觉到
まさに		副	确实; 快要
ある種	あるしゆ	連	某种
畏敬	いけい	名	敬畏
抱く	いだく	他五	怀有
触感	しょっかん	名	触感
養う	やしなう	他五	培养, 养成
アプローチ		名・自サ	探讨, 研究

## 慣用表現

### 1. 関心を傾ける

特定の事象に興味をもって注意を払う。

★多くの人が景気の回復に関心を傾けている。

### 2. 耳にする

(聞くつもりもなく) 聞く。

★昨日気になる話を耳にした。

### 3. 耳を澄ます

注意を集中して聞こうとする。

★耳を澄まして鳥の声を聞く。

### 4. 音を立てる

音を出す。

★日本人はそばなどを食べるときに、音を立てて食べる習慣がある。

### 5. ふしがある

注目すべき点、箇所がある。

★その男の言動には、どことなく怪しいふしがある。

### 6. 思いをめぐらす

考えをあれこれと働かせる。

★彼女は彼の言ったことについて思いをめぐらした。

## 内容理解のポイント

1. 第1段落では、川原さんは、どんな意見を述べているか。
2. 騒音とは、どういう音があるか。
3. 「電化製品のアラーム音」とはどんな音があるか、例を挙げて説明してみよう。
4. どうして、自然の音が聞こえなくなったか。
5. 「音というのは、地域に固有の特徴を持っている」とは、どういうことか。それは、どうして世界的に失われつつあるか。
6. 「何を騒音と感じるかは、個人の音体験に深く関わっている」について、あなたはど



のように理解しているか。例を挙げながら説明しなさい。

7. 「時代」と「騒音」は、どういう関係があるか。時代の違いによって、音にはどのような変化があったか。
8. 今の若い人のことについて、どのように述べられているか。
9. どうして、「音に対する感覚というよりも、自然や人に対する感性が鈍る」と述べているか。
11. 「感性」とは、何を指しているか。
12. 「モモ」の中で、どのようなことが書かれているか、自分のことばで説明しなさい。
13. どのように感性を育てることができるか。

## グループ活動Ⅱ

1. あなたはどのような音を騒音だと思っているか。昔と今では、変化があるか。お互いにインタビューしてみよう。
2. 「騒音は文化のバロメーター」について、それぞれの理解を述べて、グループで話し合いをしなさい。

## 練習

一、次の文の下線部を日本語で説明した上、全文を中国語に訳しなさい。

1. 蜜蜂は、我が身をかえりみずにせっせと蜜を集めて巣に運ぶ。
2. 隣の家の子アノの音がとても耳障りだ。
3. 日本人にとって魚はそれほどなじみ深いものでなくなってきたようだ。
4. 吉田教授は近年PM2.5対策に取り組んでいる。
5. パッキンが潰れているので、水道の蛇口から水がぼたぼたもれ落ちている。